

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 TEL 03-3580-0608

「心を問えば…」

青森県社会教育委員連絡協議会会長

工藤 ケイ子

過日、地元T新聞社主催の川柳大会に出席した。

「参加することに意義がある……」の負け惜しみ主義なのだが、印象に残るなかなかいい大会であった。

大会特別選の題が「心」という、昨今の社会的な関心事に沿っていたこともあり、苦吟の合間についていた以外の思いに捕らわれてしまった。

・少年ひとり傷心の矢を抱いている
・父の血を溶かし心に空描く
・迷う子に心を砕く母の海

など、少年問題に目を向け、「心のあり方」を問うている作家も多かったが、社会教育に携わる者として、柳人として嬉しいことであった。

今改めて、社会全体が「心」を問

いはじめている。「心」はいつから探し物になってしまったのか。バブルの崩壊が一つのきっかけだったとはいえ、私たちに今「心」を見つめさせるチャンスをつくったのは、天の配慮に違いない。

ときどき「上手な話の仕方」などの難解なテーマでお招きいただくことがあるが、話すことは聴くこととで、心を込めて聴く」という基本

の姿勢をお話させていただいていて。大方はアナウンサーのように流麗な喋り方をしたいというのがご希望なのだが、アエイウエオアオの発声練習や、司会マニュアルなどはお勧めしない。

だが、沈黙は必ずしも金ではない



工藤ケイ子（くどう けいこ）
昭和35年青森放送株式会社入社
アナウンス課 番組審議部長などを経て
現在 青森放送社長室番組審議部勤務
青森ペンクラブ会員・県川柳社同人・川柳大学会員・八甲田川柳社同人「雅号工藤青夏」 著書 川柳集「北の女」 審議会委員等多数

し、人は話すことで癒しも理解も得られるのである。私たちが今社会に還元するべきことは聴き上手な先輩として、それぞれの経験を伝えることである。勿論心を添えることが不可欠で、テクニクだけでは、拙句のように「美辞麗句結局何も伝ええない」ことになる。

いつの世も、若者たちの心が分らないと嘆くのは、メビウスの輪を辿る人間の愚挙の一つだとしても、「何を聴いたか」「何を伝えたか」の自問こそが、今必要であろう。

青夏

青少年非行問題に関する 緊急アピール

少年による西鉄バス乗っ取り事件、愛知の主婦殺害事件等、近時、大人社会の想像を超えた少年による凶悪事件が続発している。

青少年の問題行動については、さまざまな社会的な背景があり端的に解決のいとぐちを見いだすことは困難である。しかし、われわれ社会教育委員は、この問題について、重要な役割と責任を持つものであることを深く自覚し、今一度、地域の実情にたち、原点にかえり、青少年の諸問題について「いま何をなすべきか」を再検討しなければならない。

よって、全国の社会教育委員は、次の事項について積極的な役割を遂行することを宣言する。

- 1 都道府県、市町村における教育委員会、社会教育委員の組織における大会・研修会等において、青少年の問題行動、教育活動等について特設した分科会等の領域を設け、その研究の成果を公表し、問題解決の促進を図る。
- 2 学校・家庭・地域社会の三者がいつそうの連携を深め、青少年の倫理観、規範意識等の向上を図るための方策について、積極的に助言する。
- 3 国が示した「全国子どもプラン緊急三ヶ年戦略」の実現を促進し、体験学習等を通して、地域における青少年の健全育成に寄与する。

平成12年5月12日

(社)全国社会教育委員連合総会

(社)全国社会教育委員連合は、平成一二年五月、ホテルフロラシオン青山において開催された総会で、昨今の社会状況を厳しく受け止め、「青少年非行問題に関する緊急アピール」(別掲)を採択、今後の活動のなかで、この問題の解決にむけ、積極的な役割を果たして行くことを宣言した。

「青少年非行問題に関する 緊急アピール」を採択

好評発売中

「社教情報 No.43」

特集・子どもと学校のための新たなPTA

定価 1部350円 送料160円

企画／(社)全国社会教育委員連合 編集・発行／(財)全日本社会教育連合会

平成一二年度
**全国社会教育委員
 連合会長表彰
 受賞者**

平成一二年度一〇月一八日、全国社会教育研究大会（栃木大会）開会式の席上、次の六六名の方が、全国社会教育委員連合鈴木勲会長から表彰状および感謝状を受けられます。

表彰状

北海道	黒崎 季蔵	乙部町
北海道	中山 教道	歌志内市
北海道	早川 延治	遠軽町
北海道	南 三郎	恵庭市
北海道	山内 尊洲	八雲町
青森県	富田 得治	鯉ヶ沢町
岩手県	谷地 忠一	山形村
宮城県	佐々木榮久	桃生町
秋田県	河野二三四	秋田市
山形県	木村 正	天童市
福島県	青木千代美	郡山市
茨城県	石田正三郎	旭村
茨城県	湯原 吉郎	阿見町
栃木県	渡邊 登	栃木市
群馬県	中村 司	六合村
群馬県	大川 源八	富士見村
埼玉県	渡邊富美夫	杉戸町

埼玉県	鈴木 朗	鳩ヶ谷市
千葉県	麻生 凡夫	夷隅町
千葉県	吉岡 誠	芝山町
東京都町村	柏谷 茂里	小平市
東京都町村	大川 壽一	寒川町
新潟県	澤田 和夫	長岡市
新潟県	中野 滋	新発田市
富山県	高田 庄平	平村
石川県	長田 助市	吉野谷村
福井県	馬野 一司	美浜町
山梨県	雨宮 悦子	山梨市
山梨県	一瀬 正利	市川大門町
長野県	松下 忠夫	秦阜村
長野県	渡辺 展猛	豊科町
岐阜県	今井 春平	加子母村
岐阜県	岩本 喬	高山市
静岡県	井原 照夫	伊東市
静岡県	永井 容子	蒲原町
愛知県	橋 義廣	阿久比町
愛知県	横井 滋	岡崎市
三重県	山本 一彦	勢和村
滋賀県	桜井 宏	大津市
京都府	阪部五三夫	久御山町
大阪府	和田 治子	高石市
大阪府	岡田 兼之	姫路市
兵庫県	長島 治	養父町
兵庫県	山田 高福	高取町
奈良県	西尾 榮次	田辺市
和歌山県	酒井 昇	米子市
鳥取県	山本 直治	松江市
島根県		

広島県	矢野 芳生	大竹市
広島県	永田タツコ	竹原市
山口県	橋口 照男	防府市
徳島県	春藤 孝雄	松茂町
香川県	濱口 正一	池田町
愛媛県	石口 繁男	津島町
高知県	伊藤 博史	土佐市
福岡県	近本 喜續	筑後市
福岡県	八尋 免一	粕屋町
佐賀県	下平 裕之	久保田町
長崎県	高柳 実充	深江町
熊本県	平野 敏也	熊本県
大分県	清水 一平	耶馬溪町
宮崎県	金丸 則良	砂土原町
鹿児島県	松元 利實	輝北町
鹿児島県	鹿野 貞行	蒲生町
鹿兒島県	永野 良修	南大東村
沖縄県	西浜 良修	南大東村
指定都市	森重 一成	広島市
香川県	安原 昇	香川県

感謝状

香川県 安原 昇 香川県

全国社会教育委員連合表彰規定
 (抜粋)
 表彰は次の者について、「社教連」会長が決定する。
 一 永年社会教育委員として在任し、その功績顕著なる者。(一〇年以上以上の在任者)
 二 都道府県または指定都市単位に結成された社会教育委員の団体の

長として永年「社教連」の発展に寄与した者。(会長として一〇年以上在任し、その職を退いた者)
 三 「社教連」または都道府県社会教育委員連絡協議会の専任職員として勤務し、業績が特に優秀であると認められた者。(五年以上在任)

平成13年度全国・地区社会教育研究大会の予定		
	(期 日)	(場 所)
全国大会 (兼九州地区)	平成13年10月31日(水)～11月2日(金)	沖縄県那覇市
北海道地区	平成13年10月4日(木)～5日(金)	北海道紋別市
東北地区	未定	福島県内
関東甲信越静地区	平成13年9月20日(木)～21日(金)	茨城県水戸市
東海北陸地区	平成13年10月4日(木)～5日(金)	富山県富山市
近畿地区	平成13年9月6日(木)～7日(金)	和歌山県白浜町
中国・四国地区	平成13年8月30日(木)～31日(金)	岡山県岡山市

秋の社会教育研究大会が始まりました

全国大会

(栃木県宇都宮市)

10月18日～20日

今年の夏は記録的な暑さで「早くさわやかな秋にならないかな」と心待ちにしている方が多いのではないのでしょうか。

私たち、第四二回全国社会教育研究大会実行委員会の委員、事務局員とも、早くさわやかな季節の「やすらぎの栃木路」で全国の皆様をお迎えてできるよう準備をすすめております。

現在は、皆様のご協力、特に、部会で事例発表をしていただく方のご協力により、大会の内容も固まりつつあります。大会プログラムの作成など、印刷物の準備も順調にすすんでおります。情報満載のプログラムをお届けできると思っています。

会場や運営の準備についても、昨年、本大会を開催した鳥取県や米子市の方のアドバイスをいただきながら、栃木県内の全市町村の社会教育関係者が一体となって進めています。いかにスムーズに運営できるか知恵を出し合っています。

一〇月に宇都宮でお待ちしております。

栃木県教育委員会 生涯学習課

社会教育係長 小林 一子

北海道地区大会

(伊達市)

10月26日～27日

記念すべきミレニアム大会は、有珠山噴火が沈静化し、復興途上にある「歴史と文化のまち伊達市」において開催します。

今大会の特色は三点あり、その一つは、分科会を従来の発達課題解決型とライフステージ型から、重要課題解決型に変更して七分科会で討議を深め、資質向上と実践活動に役立てること。二つ目は、私どもに直結する「社会教育行政の活性化」(小山忠弘教授)を基調講演に、「有珠山噴火と地域社会」と題して、予知連の岡田弘教授の講話を拝聴できること。三つ目は、噴火で被害を受けた住民とそれを支えた地域住民や関係機関、ボランティアのかたがたの温情と教訓など、市民と語れる機会を得たことである。

研究主題は「社会教育行政の中核的役割」、副題を「心やさしい



噴煙を上げる有珠山

まちづくり」と設定して計画していましたが、期せずして内容と合致する結果となり、研究大会の成果が期待されます。

北海道社会教育委員連絡協議会

事務局長 黒崎 匡俊

東北地区大会

(青森県青森市)

9月19日～20日

「生涯学習社会における社会教育の役割を考える」を研究主題に、三内丸山遺跡に代表される「縄文の里」青森市で、約七〇〇人が参加して開催されます。

この大会では、生涯学習社会に

対応する社会教育の課題解決の方策、および社会教育委員の果たすべき役割について研究協議を行い、社会教育の一層の振興をいかに進めるかを考えていただくことをねらいとしています。

大会は、本県出身の「時の人」舞の海秀平氏による「夢は必ずかなう」と題した記念講演を皮切りに、津軽三味線のアトラクションを交えながら、東北各県の話題提起をもとに五つの分科会に分かれて行います。なお、一八名の方々が東北表彰されます。

青森県教育委員会生涯学習課

社会教育主事 川村 裕司

東海北陸地区大会

(愛知県蒲郡市)

10月12日～13日

紺碧の海と青い空、そして三河湾に浮かぶ竹島

こんな爽やかな景色が一望できる蒲郡市民会館とホテル竹島で一〇月一二日・一三日の二日間、東海北陸社会教育研究大会(愛知大会)を開催します。

本大会の特徴としては、分科会に特別部会を設けたことがあげられます。愛知県社連が実施した社

会教育委員調査（新社教法施行後の追加調査も含む）を通して、二世紀のあるべき姿を描き、地域社会をリードしていくための社会教育委員の役割と課題について、シンポジウム形式で徹底討議をしようというものであります。

NHK「北陸東海文さんの味な旅」の文さんこと安田文吉氏を講師に招いての記念講演。氏は、日本近世文学、浄瑠璃、歌舞伎そして芸能文化と幅広い分野を専攻の文学博士であり、「愛知の芸能文化・食文化」と題した講演がとてもしみであります。

愛知県教育委員会

生涯学習課主査 澤木 博

近畿地区大会

(兵庫県明石市)

8月24日～25日

「社会の変化に対応した新たな社会教育の推進」を研究主題とする平成一二年度の近畿地区社会教育研究大会兵庫大会は、八月二四日二五日の両日、一五五〇名を超える社会教育関係者の参加のもと、明石市立市民会館を主会場として開催された。

開会行事後のアトラクションで



澁刺としたアトラクション

は、兵庫県立宝塚北高等学校演劇科の生徒たちの澁刺としたステージが感動を呼び、また、PTAのコーラスでは歌う喜び聴く楽しさを味わった。その後、五つの分科会では、各テーマに基づき実践報告や問題提起がなされ、活発な討議や情報交換が行われた。

二日目の記念講演は、兵庫県立コウノトリの郷公園増井光子園長が、動物とのふれあいを通して生命の尊さを訴えられた。

このように兵庫大会は、生涯学習社会構築にむけて社会教育が果たすべき役割の重要性を改めて認識する大会となった。

兵庫県教育委員会

社会教育・文化財課社会教育係

指導主事 長野 元亮

中国・四国地区大会

(高知県高知市)

9月13日～14日

第二三回中国・四国地区社会教育研究大会は、「地域住民が創る生涯学習社会を目指して」を研究主題として、高知市で開催します。

今日、人々の学習活動は一層活発になってきておりますが、一人ひとりがその能力を最大限発揮できる「新しい時代に対応した生涯学習社会」の構築のために、社会教育の果たす役割の重要性を再確認できる大会を希望しています。

分科会においては、「地方分権における社会教育委員の役割」および「完全学校週五日制の実施に向けた地域活動の充実」を研究主題に取り上げております。

また、シンポジウムでは、テーマを「地域づくりに果たす社会教育への期待」～地域の特性を生かした住民参加のまちづくりをどのようにするか～として、これからの取り組みの方向性を示唆していただけるものと期待しております。

(中国・四国大会は、折りからの大雨にもかかわらず、六〇〇人に近い参加を得て無事終了しました。)

九州地区大会

(福岡県福岡市)

11月21日～22日

高知県教育委員会生涯学習課
社会教育主事 岩河 章

福岡市で、十一月二一日・二二日に「二〇〇〇年・新たな時代に対応した社会教育をめざして」をテーマに、第三二回九州地区社会教育研究大会を開催します。

二一日は、五会場で分科会を実施し、子育て支援や青少年育成などにおけるネットワークの充実・推進について討議します。また、行政、学校、民間等の関係者五人によるシンポジウムを実施し、ネットワーク型行政について論議を深めます。

二二日には、女優の三林子さんをお招きして「好奇心は元氣のもと」と題した記念講演を実施します。また、民間業者との連携により、会場ロビーにて、パソコン等の展示・紹介を行い、今後の社会教育におけるメディアの活用の一助にします。多くの方々の参加をお待ちしております。

福岡県教育委員会生涯学習課

主事 池上 紀代

(社)全国社会教育委員連合の財政基盤の確立をめざして

「財政問題検討委員会」報告

はじめに

(社)全国社会教育委員連合は、設立当初から経常的な財政問題にさいなまれてきたと云ってよい。そして、度あるごとに対策を講じて努力を重ねてきたが、一向にその問題解決に至っていないのが現状である。

特に、最近の金融事情の悪化は、(社)全国社会教育委員連合の財政的基盤に大きな打撃を与え、会の運営にも支障をきたしている。向後の会のあり様を大きく左右する問題でもあり、其の問題解決への取り組みは緊急なる課題となっている。

I 財政問題への取り組み方

(一)「財政問題検討委員会」の設置

平成一一年度第一回総会において、本会の財政問題を検討するための緊急動議が提出され、それを審議検討する「財政問題検討委員会」の設置が議決された。また、その構成メンバーについても会長及び事務局

一任が了承される。

その結果、平成一一年六月二四日開催の関東甲信越静地区会長会議の席上で、検討委員の構成メンバーが決定された。選任されたメンバーは次の通りである。

委員長

秋山 一夫(本会副会長、栃木県)

委員

落合 勝雄(本会監事、茨城県)

高梨 政道(千葉県)

山中 博子(神奈川県)

小杉山 清(本会専務理事)

事務局

小林由美子(本会事務局長)

林 洋子(本会事務職員)

(二)「財政問題検討委員会」の会議

検討会議については、検討期間が平成一一年度内という事務局の要望で概ね四回位の会議を開催して行うことにした。

また、検討の目安については、前二回の検討会議で財政上の問題を把

握し、その要因について解決方法を考えることにした。それを受けて後二回の会議では、具体的な解決策として委員会試案を作成することになった。

(三) 検討会議で把握した内容

● 本会の過去五年間の決算状況

平成六年度から平成一〇年度間の決算状況をみると、本会の財政基盤の基本財産利子は平成六年には三、六三六、二八三円あったものが、平成一〇年には二、二七〇、〇七八円と一、二六六、二〇五円の大幅な減額となっている。国庫補助も平成一〇年度より少額ではあるが削減され、今後は逐次減額し将来はなくなる見通しである。

それに反して、本会の支出は総ての面で増額の傾向にあり、収入と支出のバランスがとれなくなりつつあることは大変な問題である。特に、本会の主事業の一つである全国及び地区別社会教育研究大会は、今後継

続して国庫補助が得られないとすれば、開催県や参加者に大きな負担が余儀なくされる。

また、基本金の目標額も思うように達成されないが、これにも各都道府県の格差があり難しいものがあると思われる。

● 定款でみた問題点

本会の目的と事業については問題はないが、会を構成する会員、会費は一般的に考えて問題がある。正会員が都道府県及び政令指定都市の団体としているが、会費を一律に七万円としているのは団体の規模や財政的な面で問題がある。もつと各般の事情を考慮した適正な会費を配慮すべきである。

● 本会と市町村との関係

本会の目的は、全国の社会教育委員の資質と職責の向上につとめるとともに社会教育関係者との連絡協力体制を確立しとあるが、一般の社会教育委員の中には本会の顔が見え

ないという声を耳にする。会の存在と社会教育委員との関係が直接結びつかないからだろう。

●研究大会について

近年、生涯学習の推進が進行するにつれて、県や市町村レベルでの研修も盛んになってきた。同時に学習内容も高度化している。

こうした状況を踏まえて、全国及び地区別の社会教育研究大会も、その内容や持ち方に工夫が必要となってきた。マンネリ化の指摘と同時に全国・地区別・県などで行う大会の各内容、規模、開催方法などについて見直す必要がある。

Ⅱ 財政基盤の確立のために

(一) 社会教育委員組織の充実

県レベルの組織でも、充実しているところと未だのところと格差がある。それには社会教育委員という性格上の問題があり、主として社会教

育行政に意見を述べるという静的な世界で、動的な活動の実施団体ではないからだ。それだけに組織というものが形式的になり、財政基盤も弱い。

しかし、社会教育の中核的役割を担っている社会教育委員の果たす責務は益々増大してきている。その活性化のためにも、組織の充実は大切である。

本会の組織の充実には県や市町村の組織と密接な関係をどのように確立するかである。現行の組織をより有機的に体系化することが求められる。

(二) 社会教育委員に会費制を導入

多くの社会教育委員の組織は、会に予算があっても会費は徴収していない。行政からの補助金でまかなっている。従って、形だけの予算化であり関係機関・団体への分担金には厳しいものがある。

特に、国庫補助の減額や削減のみでなく、県や市町村のレベルでも同様の傾向にある。従来通りという訳には行かない現状にある。また、かつてのように何でも補助という考えは改めなければならないであろう。

こうした状況の中で、僅かの会費でもよい。自らの力で会運営に参加することは、社会教育委員としての意識の高揚にもつながり、本会と社会教育委員とのつながりも明確にもなる。そして、本会や都道府県レベルの財政も確立されよう。

その具体的な試案として本会の会費を考えてみると、現行の都道府県や政令指定都市の会費七万円に社会教育委員一名当たり一〇〇〇円の会費を納入して貰うだけで、現在の会費総額四、二〇〇、〇〇〇円から約八、〇〇〇、〇〇〇円と大幅な増額となり、財政問題としての不安も一気に解消するし、会費の安定化も図られ

おわりに

〔社〕全国社会教育委員連合の「財政問題検討委員会」は、平成十一年度内に方向づけをという要望に添えて、短期間ではあったが、委員による活発な意見と検討の結果、十分とは言えないが一応の試案を提示することが出来た。

「財政問題検討委員会」としては、本会の財政基盤を確立するためには、前述の事柄を踏まえて社会教育委員連合という組織の明確化と、それに伴う会費制の導入が不可欠と考える。恒久的に安定した会の財政基盤の確立をめざす方策となれば幸いである。

平成12年5月12日 第一回総会において報告・協議された。ひきつづき、第二回総会等で協議していく。

社教連事務局だより

平成12年度第一回総会

平成12年5月12日(金)午後1時からホテルフロラシオン青山におい

て開催された。鈴木勲会長の挨拶、

来賓の富岡賢治文部省生涯学習局長の挨拶のあと、小杉山清専務理事が経過報告をおこなった。つづいて議

長に鈴木完一理事(福島県会長)を選出、議事録署名人に渡辺富美夫埼玉県会長、池田實長崎県会長を指名

して議事にはいった。

第1号議案 平成11年度事業報告、決算報告について

「総会資料」にもとづき事務局から報告。つづいて、落合勝雄監事より「適正に収支されたことを認める。所感として、低金利時代の中、今後、

基本財産の運用利子の減少が予想されるのが問題。」との報告があり、事業、決算いずれも承認、可決された。

(次ページにつづく)

第2号議案 平成12年度事業計画、収支予算案について

「総会資料」にもとづき事務局から説明。いずれも原案のとおり承認、可決された。

第3号議案 第42回(平成12年度)全国大会(栃木大会)の開催要項について

秋山一夫副会長(栃木県会長)および栃木県事務局から大会要項にもとづき説明があり、原案のとおり承認、可決された。

第4号議案 第43回(平成13年度)全国大会開催県について

仲地朝明沖縄県会長から、平成13年度、沖縄県那覇市内において開催の意思表示があり、満場一致で承認、可決された。

第5号議案 役員の一部改正について

平成12年度東北地区の社会教育研究大会の開催が、岩手県から青森県に変更になったことにもない、堀川英俊理事(岩手県会長)の辞任と、後任として、工藤ケイ子青森県会長の理事への就任(前任者の残任期間)が、承認、可決された。

報告事項「財政問題検討委員会報告」について

平成11年度総会において設置が決

定した「財政問題検討委員会」の秋山一夫委員長から、「(社)全国社会教育委員連合の財政基盤の確立をめざして―「財政問題検討委員会」報告―」にもとづき報告された。(報告の全文は6〜7ページ参照)

議長から、この件については、引き続き、秋の第2回総会等で議論して行く事が、午前中の理事会において確認された旨報告がありました。なお、塩澤實蔵静岡県会長から次の発言があった。「この報告書が提案している社会教育委員への会費制の導入に基本的に賛成である。静岡県では、すでに実施している。また、今後、文部省の事業補助がまったくなくなることは納得出来ない。なんらかの助成があるべきだ。」

その他

川原黎治理事(福岡県会長)から「青少年非行問題に関する緊急アピール」について提案があり、全員の賛成で採択された。(アピールの全文は本紙2ページ参照)

購読をおすすめします
わが国で唯一の生涯学習・社会教育の総合情報誌
雑誌「社会教育」(毎月1回発行)

発行 (財)全日本社会教育連合会

予約購読料 1年間 9,900円 (定価 1冊780円・増大号は1200円)

お申込・お問い合わせは TEL 03-3580-0608 まで

〈最近の特集テーマ〉

- 2000年11月号 特集 21世紀の公民館・図書館・博物館 (予定)
- 2000年10月号 特集 「学校」(増大号)
- 2000年9月号 特集 選職社会のキャリア支援型生涯学習
- 2000年8月号 特集 65号特別企画(1946年創刊号からの特集テーマ)
- 2000年7月号 特集 ピオトーブ
- 2000年6月号 特集 エル・ネット
- 2000年5月号 特集 生涯活躍(増大号)
- 2000年4月号 特集 子ども読書年

